

[ミサについての補足資料：『カトリック教会のカテキズム』より]

典礼におけるキリストのみわざ

1085 教会の典礼において、キリストはおもにご自分の過越の神秘を示し、実現されます。この世におられたとき、イエスはご自分の過越の神秘を教えによって予告し、行動によって先取りなさいました。ご自分の時が到来すると、イエスは「ただ一度」だけ死んで、埋葬され、死者の中から復活し、御父の右のお座りになりました（ローマ 6.10;ヘブライ 7.27,9.19 参照）。

歴史の中でこれだけが過ぎ去ることのない出来事です。これは、人類の歴史に起こった実際の出来事です。比類のない出来事です。歴史の他のあらゆる出来事は、一度起これば過ぎ去り、過去の中に飲み込まれてしまいます。これに対して、キリストの過越の神秘は、単に過去の出来事にとどまるものではありません。ご自分の死によって死を亡ぼされたからであり、さらに、キリストの存在のすべて、またあらゆる人々のために行い苦しまれたすべてが、神の永遠にあずかり、こうして、すべての時に及んで、そのうちに現存するからです。キリストの十字架上の死と復活の出来事は永続し、すべてをこのいのちに引き寄せます。

1103 アナムネシス（記念）。典礼祭儀は人類の歴史の中に介入された神の救いのみわざをいつも反映します。・・・「ことばの典礼」で、聖霊は会衆に、キリストがわたしたちのために行われたすべてのことを「想起させます」。

聖霊はキリストの神秘を現在化する

1104 キリスト教典礼は、救いの出来事を単に思い起こさせるだけでなく、これを現在化します。キリストの過越の神秘が祝われるのは、単なる繰り返しではありません。繰り返されるのは祭儀であり、その度に、実に聖霊が注がれ、一回限りの過越の神秘を現在化するのです。